

RÖKO DIGITAL 参加報告

2025 年 6 月 14 日(土) ZOOM webinar

藤田医科大学東京 先端医療研究センター 佐藤葉子

学会名：RÖKO DIGITAL 2025（ドイツ放射線学会 DRG:Deutsche Röntgengesellschaft）

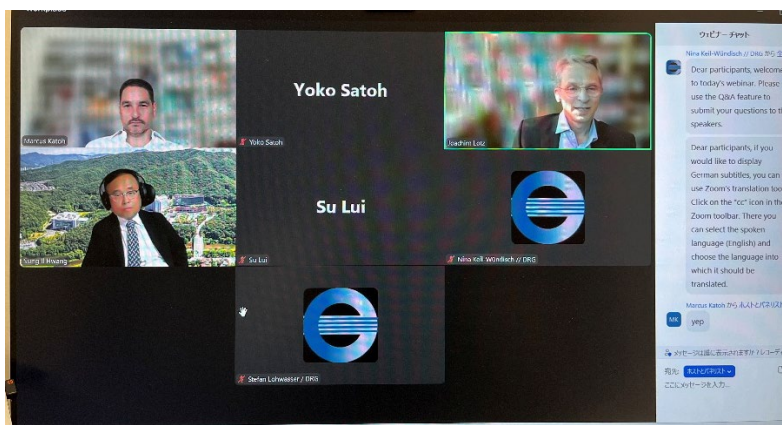
開催期間：2025 年 3 月 5 日～6 月 21 日（オンライン）

参加セッション：Special Session: *Challenges for Radiology in Asia*

日時：2025 年 6 月 14 日（土）15:30–16:30（日本時間）

座長：Dr. Joachim Lotz／Dr. Marcus Katoh（いずれもドイツ）

構成：日本・韓国・中国の 3 名による講演（各 15 分）とディスカッション

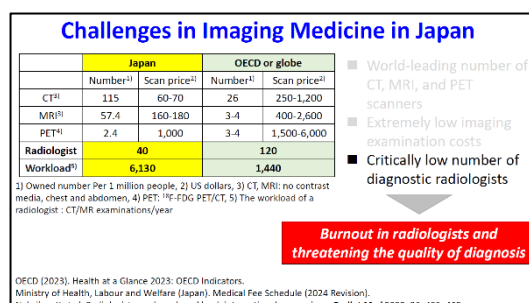


会の終了時に 70 名ほどアクセスしていた。

各国の発表概要：

日本（佐藤）

- 日本の放射線科診療の現状と、当院における体制改革の紹介
- アジア若手核医学医向け教科書作成プロジェクト（日中核医学交流会）



Project Overview – Concept and Visual Identity

Open access!

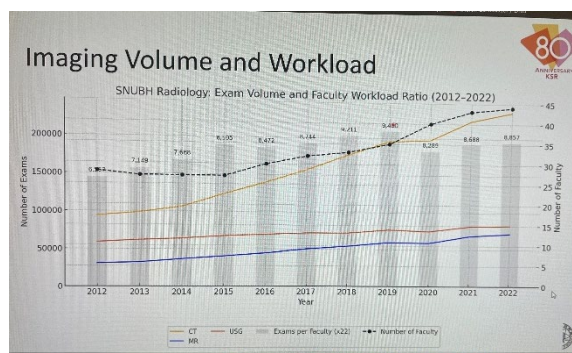
■ Proposed at the annual meeting and accepted by **Asian Oceanian Federation of Nuclear Medicine and Biology (AOCNMB)** in 2023

■ Aimed at **supporting young nuclear medicine physicians in Asia – Oceania** with limited access to formal training resources

■ Editorial board : 4 editors (2 from Japan, 2 from China)

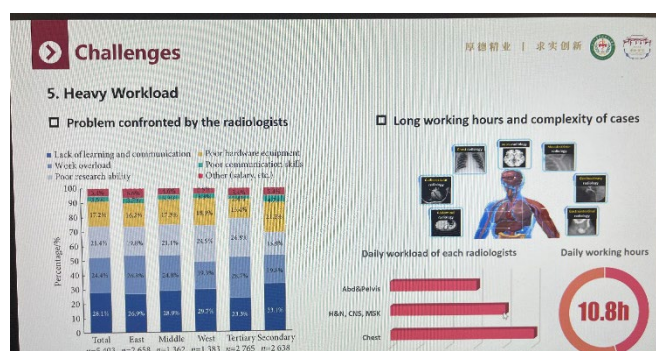
韓国 (Dr. Seung-Il Hwang)

- 医学生増加計画による、学生ボイコット・医師（専攻医）の現場離脱の危機
- 放射線科医不足・画像検査価格の低さ・検査数の増加→30-50%は“無駄”な検査
- 追加読影料制度の検討、AI の市販後評価の遅れ
- 2025 年 9 月の KCR の開催案内と国際性をアピール（9 割が英語セッション）



中国 (Dr. Su Liu)

- 画像検査件数急増に対する放射線人材不足→放射線科医の burnout の深刻化
- 教育制度の長期化と質の低下→subspecialty 体制の検討
- AI 活用は進むも限定的、臨床と研究の連携不足が課題



所感

- 3 国とも共通して、医療人材の不足、検査の過剰実施と価格の安さ、診断補助 AI の導入遅延が課題として挙げられた。韓国の「検査数を制限すべき」という提案は印象的で、日本でもまずは装置数の制限が喫緊の課題だろうと考えた。AI は研究費が獲得しやすく、盛んな研究が進められている反面、市販後の臨床実装は進んでおらず、責任の所在など制度面での整備も求められている。
- 今回の発表では英語表現に苦労し、伝え切れなかった点もあったが、2026 年 ECR "Meets Japan" セッションを見据えた貴重な実践の場となった。次回はより準備を整え、発信力を高めたい。